

私たちの暮らしを支えてくれる税金

鶴ヶ島市立西中学校3年 野田 彩華

私が小学四年生の六月に父が亡くなった。もう今年で五年が経った。入院歴もなく、健康診断も異常なしで、前日まで元気に会社で仕事をしていた父の異変に気づく者は誰一人いなかった。後になって、死因は急性気管支肺炎だと分かったが、父自身もきっと自分の異変に気づいていなかっただろう。あまりに突然すぎて、すぐには受け止めきれない大きなショックと深い悲しみが襲ってきたのを今でも鮮明に覚えている。それと同時に、これから先どうしたらいいのかと大きな不安が押し寄せてきた。その不安が誰よりも大きかったのは母だったと思う。言葉にはしなかったが、当時母は専業主婦だったので、なおさらだと想像ができた。私は現在、公民の授業で税について学んでいる。税の仕組みはかなり難しいため、予習しようと教科書を開いた。しかし、教科書の説明だけで理解するのに苦労した。私には高校生の姉がいるので、税について聞いてみた。

「税って本当に難しいよね。私たちの生活は多くの税金によって支えられているの。だからしっかり学んで感謝しなきゃね。」

そう言って姉は、私に動画を勧めた。「ご案内します アナザーワールドへ」というタイトルの動画では、世の中から税がなくなったら…というもしもの世界が描かれていた。道路は整備されることなく穴だらけ。警察や消防車を呼ぶのもすべて有料。急ぐ場合は高額だったりする。全員が学校に通えるわけではなく、日中から働く子もいる。私達が当たり前だと思って安心して暮らせる毎日がその世界にはなかった。

その夜、母に動画での話をすると、税によって支えられている今の暮らしについて詳しく話してくれた。父が亡くなり母一人となった我が家は、ひとり親家庭等医療費助成を受けている。子供医療費助成制度では中学校三年生までが医療費補助の対象だが、ひとり親家庭では十八歳になった年度の三月末までが対象なのだ。その間は母もその対象となる。あまり考えたくないことだが、もし母が病気になったとしたら少しでも早く元気になってほしい。安心して受診できる環境があることは、とてもありがたい制度だと感じた。

来年から私は高校生となり、国と埼玉県から就学支援金として補助を受けることとなる。これも国民からの税金で支えられているものだ。自分の目指す夢に向かい、勉強に専念できるという恵まれた環境に感謝しなければならない。国民の納める税金は私たちの暮らしを支える大きな柱となっていると実感した。

今の私は、税によって支えられる側にいるが、社会人になったらしっかりと働き、税金を納め、日本の社会に貢献できる大人になりたい。皆が安心して暮らせるより良い社会のために税は必要である。この動画を見て税についての重要性を知る機会をくれた姉に感謝している。